

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2008年38週(9月3週9/15~9/21)

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html
E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp
連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

今週の内容

トピックス

手足口病、これから注意する感染症・その1
(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

定点医療機関コメント

RSウイルス感染症、マイコプラズマ、感染性胃腸炎、溶連菌感染症等

全数把握感染症発生状況()内は件数。

結核(13)、腸管出血性大腸菌感染症(2)、A型肝炎(1)、レジオネラ症(3)、アメーバ赤痢(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(2)、梅毒(1)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(2)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

名古屋市感染症情報(9月前半)

WHO 疫学週報抄訳

2008年8月29日(83巻35号)

ポリオ; ナイジェリアの近況

2008年9月5日(83巻36号)

ポリオ; 世界ポリオウイルス検査室ネットワークによる野生株とワクチン由来株のサーベイランス

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

RSウイルス感染症 春日井保健所管内 16人

トピックス

手足口病(図1)

38週の定点あたり患者報告数は1.16人、前週比0.8倍(263人 212人)です。

これから注意する感染症 - その1 -

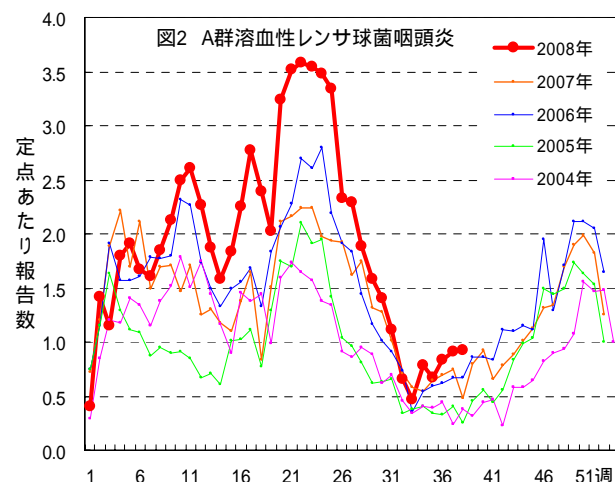
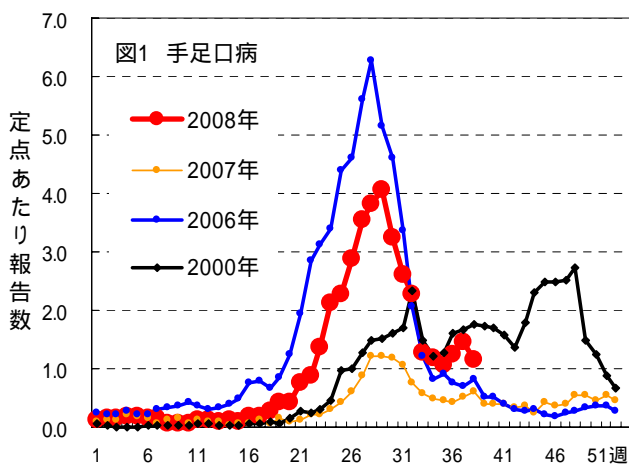
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図2)

レンサ球菌のうち、Lancefield血清型A群による上気道感染症です。潜伏期は1~3日で、高熱、咽頭痛、嘔吐、腹痛などの症状を引き起こします。他にも、扁桃や咽頭の化膿性炎症、圧痛を伴う頸部リンパ節の腫脹があります。

A群溶血性レンサ球菌によって発生する咽頭炎以外の主な疾患には、しょう紅熱、劇症型溶血性レンサ球菌感染症などがあり、これらについては早期診断、早期治療が必須です。詳しくは、衛生研究所のウェブページ*をご覧ください。

例年、咽頭炎の患者報告数は梅雨の時期と晩秋から冬季にかけて増加する傾向がありますから、今後の流行にはご注意ください。

*「溶血性レンサ球菌咽頭炎」



<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yourenkin.html>

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

4歳男 腸炎 サルモネラO4群
【一宮市 あさのこどもクリニック】
45歳男 成人百日咳
【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌O1 35歳女、O18 8歳女、
O25 8か月男
【一宮市 城後小児科】

17歳男 サルモネラO4群
【一宮市 平谷小児科】
感染性胃腸炎少し目立つ程度です。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
RSウイルス感染症散発しています。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
2歳女、1歳女 姉妹マイコプラズマ感染症
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

特別な感染症はなし。
溶連菌感染症が少しのみです。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
手足口病まだ少しみられます。
溶連菌感染症、突発疹散発。
乳幼児で 2~3 日で発熱のみという症例が
目立ちました。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
手足口病少々。
溶連菌感染症、アデノウイルス感染症少々。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
RS ウイルス感染（下気道炎）が2例見られ
ました。
【小牧市 志水こどもクリニック】

溶連菌が増えてきています。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
RS ウイルス感染症の入院が増えています。
【春日井市 春日井市民病院】
ムンプスは児からうつされた母と叔母。
【春日井市 竹内医院】
RS ウイルス感染症が増加傾向です。
【小牧市 小牧市民病院】
3歳男 カンピロバクター腸炎
【美浜町 厚生連知多厚生病院】
サルモネラ（O9）腸炎1名 2歳男
RS ウイルス感染症 1名 4か月女
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

イムノカードRSV（+）2か月男
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
流行性角結膜炎 9歳男
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
病原大腸菌O6（+）2歳女
アデノ 6歳女
特に目立った流行なし
【岡崎市 花田こどもクリニック】
特記すべきことありません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
2歳男 エルシニア
5歳女 マイコプラズマ
1歳男 アデノ（+）
8か月男 病原性大腸菌O74（+）VT（-）
【岡崎市 にいのみ小児科】

9か月男 病原大腸菌O1
18歳女 病原大腸菌O1
3か月女 病原大腸菌O125
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
ムンプスいます。
【碧南市 永井小児クリニック】
マイコ気管支炎 3名（4歳：2名 1歳）
【刈谷市：田和小児科医院】
感染性胃腸炎、手足口病が少し目立ちました。
【西尾市 山岸クリニック】
アデノウイルス感染症 4歳男・4歳女・5
歳男
マイコプラズマ肺炎 11歳女
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

4歳男 カンピロバクター腸炎
咽頭結膜熱などのアデノウイルス感染症が
多くみられます。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
5歳女、4歳男、3歳男、3歳女 アデノ扁桃炎
【豊橋市 医療法人野村小児科】

40歳男 A型インフルエンザ
【豊橋市 医療法人杉浦内科】
カンピロバクター男5歳
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）9月14日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun080512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	38週報告数			2008年累計(1～38週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	9	4	1	598	175	69
豊田市	1	1		64	18	17
豊橋市	1		1	61	22	11
岡崎市				65	31	15
一宮				75	19	7
瀬戸				107	38	18
半田	1	1		46	10	13
春日井				73	21	9
豊川				36	14	5
津島				46	11	2
西尾				35	15	5
江南				49	15	5
新城	1	1		10	3	1
知多				75	18	23
師勝				32	10	5
衣浦東部				67	17	11
合計	13	7	2	1,439	437	216

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	82歳	女	9/7	9/8	9/13	O157、VT1(+)VT2(+)
2	岡崎市	6歳	男	9/11	9/12	9/16	O157、VT1(+)VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握） （推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	津島	53歳	女	国内

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	岡崎市	82歳	男	肺炎型	国内
2	半田	68歳	男	肺炎型	国内
3	半田	57歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	春日井	35歳	男	腸管アメーバ	性的接触	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	47歳	男	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	47歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	66歳	男	A I D S	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	衣浦東部	35歳	女	早期顕症	性的接触	国内

バンコマイシン耐性腸球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	68歳	女	国内
2	瀬戸	79歳	男	国内

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

爽やかな秋の風に乗って、近くの幼稚園から運動会の練習らしい賑やかな声が聞こえてくるようになりました。現役の小児科医だったころに、外来で「かけっこ、何番だった?」とか聞いたりしたものです。そろそろ、金木犀の香りも風に乗ってくるころです。いつも貴重な情報を有難うございます。9月前半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からは感染症は全般に少ない状況で、マイコプラズマ感染症だけは多い状況が続き、典型的な手足口病やヘルパンギーナは少ないが高熱を伴う咽頭炎をときどき経験、百日咳が2例続けてあり、マイコプラズマ肺炎の入院が多く、細菌性腸炎は減少傾向でRSウイルス気管支炎を散発的に認める、第二日赤岩佐先生からはRSウイルス感染症の入院例2例あり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎2名(病原性大腸菌O25、黄色ブドウ球菌)、手足口病1名、RSウイルス感染症1名、A群溶連菌咽頭炎2名(うち1名入院)、急性気管支炎~肺炎(マイコ含む)の入院4名、咽頭アデノウイルス感染症の入院1名、手足口病に口内炎による摂食不良で脱水のため入院1名、大同病院水野先生からは比較的落ち着いているが腹痛を訴える児が比較的多く、成人にも多いようで、マイコプラズマ等の肺炎時々(要入院例あり)、水痘やムンプス時々、成人でムンプス、水痘に罹患して入院する例があり、医療従事者ではないけれど、成人が罹患すると重症化するのでワクチン等がやはり必要と痛感、とのお手紙でした。有難うございました。

2008 年 8 月 29 日 (83 巻 35 号) <http://www.who.int/wer/2008/wer8335/en/index.html>

ポリオ。ナイジェリアにおけるポリオ根絶計画の進捗。07 年 1 月～08 年 8 月。06 年の人口が 1.4 億のナイジェリアはポリオの国内流行が続いている 4 カ国のひとつ（他はインド、パキスタン、アフガニスタン）で、ポリオ根絶のためさまざまな方法がこれまで実施されてきた。同国ではデマによる経口生ワクチン(OPV)不信のため、定期外補充予防接種活動（Supplementary Immunization Activities, SIA）が北部諸州で中止された後ポリオ野生株(WPV)の再流行が 03～04 年に発生、その結果国内だけでなくそれまでポリオのなかった近隣 20 カ国に 03～06 年に拡散した。全国に SIA が勧告されたにもかかわらず受容が限られていたことと実行上の問題が続いていて接種率は低迷、ポリオ流行が続いていた。06 年、ナイジェリア政府は新戦略を採用、1 型単味生ワクチン（mOPV1）を 1 型野生株（WPV1）流行阻止のため多くの SIA に導入。政府は同時に SIA 履行法も検討、結果として 07 年のポリオ報告数が 285 例とサーベイランス開始の 03 年以来最低となった。しかしこの新戦略採用後も北部各州のワクチン接種率は 08 年の流行阻止には不十分であった。08 年には 8 月 12 日時点で 556 例が確定され、うち WPV1 が 511 例（07 年同期では 176 例が確定、WPV1 は 47 例）であった。本報は 07～08 年の最新情報である。

< 予防接種活動 >

06 年から 3 価生ワクチン（tOPV）定期接種が強化され、乳児定期接種率は全国平均で 05 年の 32%が 07 年には 62%に上昇（分布 30～100%）した。プライマリヘルスケアや予防接種サービスに問題のある北部の州が 30%以下で最悪であった。政府は tOPV による全国 SIA を 06 年 2 月に実施後、3 月に mOPV1 を SIA に導入、06 年 5 月から immunization plus days, IPD と命名した OPV に他の健康活動（麻疹ワクチンなど他の予防接種、駆虫剤内服、殺虫剤浸透蚊帳普及など）を組み合わせ、固定されたヘルスセンターで実施するだけでなく戸別訪問（house to house）で実施開始、06 年には mOPV1 による IPD が 3 回、tOPV による IPD が 1 回実施、07 年には IPD が 7 回（mOPV1 6 回、mOPV3 が 1 回）、08 年に入り IPD が mOPV1 で 3 回、mOPV3 で 1 回実施された。今後、8 月下旬に北部で IPD 予定、さらに 11 月に北部で、12 月に南部で麻疹ワクチンキャンペーンと組み合わせ mOPV1 で IPD が予定され、12 月上旬、北部のハイリスク州で mOPV1 による SIA 実施が予定されている（06 年 1 月～08 年 5 月の月別の WPV1 と WPV3 確定例数と SIA 実施月のグラフ、07 年と 08 年の月別の SIA 実施状況と使用 OPV の一覧表あり）。生後 6～59 ヶ月小児の非ポリオ性の急性弛緩性麻痺（Acute flaccid paralysis, AFP）の OPV 接種歴が調査対象集団の OPV 接種率接種率を推定するのに利用されている。ポリオ多発地帯の定期接種率が低いこと、頻回の SIA にもかかわらず両親が

OPV 接種歴なしと答える所謂ゼロ接種児が 07 年になっても多く、多発地区では 18%(ポリオ非発生地区では 2%)に及んでいる。多発 7 地区でゼロ接種児は 06 年 45%だったのが 07 年初めに 30%となったが 07 年末になっても 15%未満となっていない。

<AFP サーベイランス>

15 歳未満小児人口 10 万当り非ポリオ AFP 例数は 06 年の 7.9 が 5.9 に減少。07 年には 06 年と同じく全 37 州、744 自治体が WHO の目標である 10 万当り 2 を超える報告数であった。07 年における適切な便材料の収集率は全国で AFP 例の 91.6%で WHO の目標の 80%を超えていた分離株の遺伝子解析では株によるギャップの大きいことが続いており、AFP 患者例数が不十分であったり材料収集不備など、サーベイランスの感度に未だ問題があると思われる。

<WPV 発生状況> (詳細な地図あり)

07~08 年の WPV 患者は 841 例、622 例(71%)が 3 歳未満で、543 例(65%)が OPV 3 回未満、224 例(27%)が接種ゼロ児であった。

07 年に発病した 285 例 (WPV1 が 116 例、WPV 3 が 169 例)のうち 60 例がカノ州、114 例が他の北部主要発生州であり、08 年には 8 月 12 日時点で全国で 556 例(WPV 1 が 511 例、WPV 3 が 45 例)、うち 194 例がカノ州であった(詳細略)。

37 州のうち発生した州の数は 06 年には 18 州 (49%)、07 年、08 年共に 23 州 (62%)と増加。

07 年の WPV 3 流行、08 年の WPV 1 の流行の発端は共に南部から始まり北部に及んでいる。

北部を中心とした WPV 1 流行は 07 年前半やや減少したが 07 年後半から 08 年に増加。

07~08 年チャドと東ニジェールで発生した WPV 1 と WPV 3 はいずれもナイジェリア由来であった。

ナイジェリア由来 WPV 1 は 08 年 8 月、ベニン、ブルキナファソとマリ国境の西ニジェール、さらに最近ブルキナファソで分離されている。

WHO 感染症関連ウェブサイト一覧表。

2008 年 9 月 5 日 (83 巻 36 号) <http://www.who.int/wer/2008/wer8336/en/index.html>

ポリオ。07 年 1 月~08 年 6 月。野生株とワクチン由来株のサーベイランス。

世界ポリオ検査室ネットワーク (Global Polio Laboratory Network, GPLN) は WHO の 6 地域全て、100 カ国の 145 検査施設で構成され、世界ポリオ根絶作戦を継続的に支援、その主要業務は AFP 便材料のウイルス分離、分離株の血清型鑑別、野生株かワクチン株かの型内鑑別検査 (intratypic differentiation, ITD)、ウイルス伝播連鎖研究のための遺伝子解析であり、いくつかの GPLN 参加検査室ではそれに加え臨床診断とか非 AFP 患者材料や下水材料のウイルス分離も実施している。

< 検査室の認定、業務量、ウイルス確定時間の短縮 >

145GPLN 参加検査室のうち、143 検査室が WHO により完全に認定されており、1 検査室は不完全、1 検査室は回答遅れで間に合わなかった。

07 年 1 月～08 年 6 月の 18 ヶ月に、GPLN は 234,521 検体の便材料を検査した(表あり)。これはその前の 18 ヶ月の 12%増である。AFP 材料の 90%はポリオが土着している 3 地域(アフリカ、東地中海、東南アジア)のもので、それぞれ 7.5%増、3.2%増、23.8%増となっている。

06 年中期から GPLN はウイルス確定までの時間を短縮するためのいくつかの手段を履行。ポリオ土着地区の履行が優先された。この地区の 44 検査室全てが 08 年 6 月にはウイルス分離の新方式(new algorithm)を採用、その結果、確定までの時間は 28 日だったのが 14 日に短縮された。06 年中期には PCR 法と ELISA 法による ITD 新方式で ITD が 14 日から 7 日に短縮、最初はポリオ土着国の 12 検査室だけで可能であったのが 08 年 6 月にはスタッフ訓練機材供与の結果さらに 10 検査室でも可能となっていてこれら検査室の結果の精度は良好であった。07 年にウイルス材料搬入から検査結果報告までに要した日数が 14 日以内であった検査室はアフリカ地域で 83%、東地中海地域で 81%、東南アジア地域で 36%であったのが 08 年にはそれぞれ 83%(不変)、95%(増加)、84%(増加)となっており、さらに短縮できる新方式がアメリカ地域で履行されており、08 年末には西太平洋地域で予定されている。ヨーロッパ地域では ITD 能力増加を優先課題としている。

< WPV 検出状況と伝播連鎖 >

07 年 1 月～08 年 6 月、16 カ国の AFP 患者から WPV が分離された(表あり)。1 型(WPV 1)と 3 型(WPV 3)で、野生株 2 型は 1999 年以降、世界で分離されていない。ウイルス蛋白 VP1ヌクレオチド配列解析の結果、分離 WPV は 4 遺伝子群に属している:南アジア(SOAS) WPV1 と WPV3、西アフリカ(WEAF-B) WPV1 と WPV3)。SOAS の WPV1 と WPV3 はアフガニスタン、インド、パキスタンに土着、それに対して WEAFF-B の WPV1 と WPV3 はナイジェリアに土着。4 群共に 07 年 1 月～08 年 6 月に分離。ナイジェリアではその前の同期から 50%減。WPV1 と WPV3 の比は不変で 2.7:1。WPV1、WPV3 共に多数の系統樹に属している。インドでは 07 年 1 月～08 年 6 月の分離数はその前の同期の 65%増、WPV1 と WPV3 の比は 7:1 から 1:13 と大きく変化した。インドでの mOPV1 による SIA 普及によりビハール州を中心に WPV1 伝播中断と WPV3 流行が発生していると思われる。アフガニスタンとパキスタンにおける伝播状況には目だった変化は起こっていない。12 カ国の非土着国(アンゴラ、オーストラリア、ベニン、中央アフリカ、チャド、コンゴ共和国、エチオピア、ミャンマー、ネパール、ニジェール、ソマリア、スーダン)における分離 WPV は遺伝的にインド由来とナイジェリア由来に分類され、インド由来の WPV1 は 07 年アンゴラ、コンゴ共和国、08 年中央アフリカに伝播、06 年にインドからバングラデシュに伝播した WPV1 は 07 年にミャンマーに

伝播、ベニン、チャド、エチオピア、ニジェール、ソマリア、スーダンには北部ナイジェリアから WPV1 が伝播（年別、国別の詳細な記載あり、略）07 年にパキスタンからオーストラリアに WPV1 の成人輸入例あり。07 年 1 月～08 年 6 月の WPV3 の殆どが土着 4 カ国で分離され、土着国から輸出株としてインド由来 WPV3 がアンゴラとネパール、ナイジェリア由来 WPV3 がチャドとニジェールに伝播している。ネパールでは少なくとも 7 回の輸入があったが国内流行はおこっていない。それに対しアンゴラ、チャド、ニジェールでは国内二次伝播が発生している。GPLN は非 AFP 材料のウイルス分離も実施、07 年にスーダンで AFP 患者接触健康者から WPV1 分離、下水材料からは 07 年と 08 年にインド・ムンバイで WPV1 と WPV3（共にビハール州で流行している株に類似）07 年にスイスその前年にナイジェリアからチャドに伝播した WPV1 関連ウイルスが分離されている（スイスでの発病者なし）。

<ワクチン由来ポリオウイルス（VDPV）検出状況>

GPLN はポリオ生ワクセービン株関連の VDPV を次の 3 群に分類している。

ワクチン由来流行ポリオウイルス(c-VDPV)：同一居住地域の AFP2 例以上から分離。

免疫不全者感染ワクチン由来ポリオウイルス(i-VDPV)：免疫不全患者から分離。

不詳(ambiguous)ワクチン由来ポリオウイルス(a-VDPV)：上記の、いずれでもない株。

07 年 1 月～08 年 6 月、GPLN は 8,478 株のセービン株関連ウイルスをスクリーニングした（表あり）。ミャンマーで 4 例の AFP から 8 株の c-VDPV 1、ナイジェリアで 105 例から 207 株の c-VDPV2 を分離、うち 2 例は野生株との混合感染であった。ロシアとベラルーシで i-VDPV 各 1 例、イランで i-VDPV2 が 1 例と i-VDPV の 1 型と 2 型の混合感染 1 例、中国では a-VDPV1 の 4 株がそれぞれ独立した地区で単発的に分離、コンゴ共和国（07 年）マラウイ（08 年）からも a-VDPV 分離報告があった。

WHO感染症関連ウェブサイト一覧表。

愛知県感染症情報

2008年38週(2008年9月15日～2008年9月21日)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	23	1	46	168	432	66	212	3	159	5	29	102	0	16	0	0	4	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	19	1	38	120	297	49	175	2	131	2	23	84	0	5	0	0	4	0
名古屋市	70	70	11	15	5	4		8	48	135	17	37	1	28	3	6	18		11				1
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1			37	13	6	2		10		2	1					1	
海部	津島	7	7	2	2	1		1	11	36	10	19		12			17		2				
尾張中部	師勝	4	4	1	1				6	4		5		1		3	2		1				
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		2	3	24	3	14		11	1		18					1	
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	16		4	18	10	3	22			5	6						
	江南	6	6	1	2		1		4	28		4		12		2	2		1				
知多半島	半田	6	6	1	2	1		1	3	31	2	28		10		3	8		1				1
	知多	7	7	2	2		1		1	27	2	4		5			2						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		1	7	11	5	15	1	17			12						
	衣浦東部	13	13	2	4	1		4	11	26	6	12		17			7						
	西尾	5	5	1	2	1		5	2	14		12	1	5		4	1						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	1	4	13	18	5	4		9	1		8						
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		1	9	22	1	17		3		2							1
	豊川	9	8	1	2	1		6	4	33	6	17		7		2							
東三河北部	新城	2	2			1		1															

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

愛知県感染症情報

2008年38週(2008年9月15日～2008年9月21日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	19	1	38	120	297	49	175	2	131	2	23	84	0	5	0	0	4	0
～6ヶ月	6				10	1	1		4		1							
～12ヶ月			1	1	34	3	8	1	63	1	3							
0歳																		
1歳	10		2	6	48	9	42		57		6	8						
2歳	2		5	6	22	9	33		7		1	8					1	
3歳	1		9	10	14	9	28				2	12						
4歳			7	17	28	8	20	1			3	13		1				
5歳			4	20	21	7	15				3	17						
6歳			4	18	12	3	13				3	10						
7歳			2	10	15		4					4						
8歳			1	9	9		5					1		1				
9歳				7	4		3					3						
5歳～9歳																	2	
10歳～14歳				12	21		1					4		1			1	
15歳～19歳					13		1					1						
20歳～			3	4	46		1			1	1	3						
20歳～29歳																		
30歳～39歳														2				
40歳～49歳		1																
50歳～59歳																		
60歳～69歳																		
70歳～																		
70歳～79歳																		
80歳以上																		

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く